

♪ 2023年度 *poco a poco* ♪

Nr. 16 2023年11月23日(木)

文責:プファイル・辰巳

November, November...

11月23日は、日本では勤労感謝の日ですね。ドイツのカレンダーでは、昨日が Buß- und Betttag (懺悔と祈りの日) でした。ヘッセン州では1994年まで、この日は祭日で、学校もお休みでした。法律が変わって、今ではザクセン州以外は祭日ではなくなりましたが、プロテスタント教会歴では現在も意味を持っています。クリスマス前の4週間はドイツでは「アドヴェント(待降節)」として、クリスマスをお祝いする準備をします。その前に懺悔とお祈りを済ませておこうということのようです。

いよいよドイツの暗く長い冬がやってきますが、クリスマス市が始まると、イルミネーションの明るさに心が癒されますね。寒さに負けず、元気に明るい気持ちで過ごしたいものです。

音楽こぼれ話 <フンパーディンクとフランクフルト>

フランクフルトに所縁のある作曲家は何人かいます。数か月前のFAZ(フランクフルター・アルゲマイネ新聞)の特集で、5人の作曲家が取り上げられ、紹介されていました。その記事を参考に、順番にその作曲家たちをご紹介します。

第1回目はエンゲルベルト・フンパーディンクです。フンパーディンクの名前は聞いたことがなかった方もおられるかも知れませんが、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」の作曲家といえば、頷いていただけるでしょう。

そのフンパーディンクがフランクフルトに住み始めたのは1890年のことでした。ホッホ・コンザヴァトリウム(ホッホ・コンザヴァトリウム)の講師として、またフランクフルト・アルゲマイネ新聞のオペラ・レポーターとして雇用されたのです。フンパーディンクは30代の半ばでした。この



頃フンパーディンクの住まいは、シェッフェル通り1番地だったのですが、この住居にて1981~82年にかけて、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を作曲したそうです。

作曲を始めたきっかけは、1890年に妹の子どもたちのために、ヘンゼルとグレーテルの劇用の音楽を作曲してくれるように頼まれたことでした。子どもむけの曲はすぐにできたのですが、フンパーディンクはそれに飽き足らず、これをオペラとして完成することを目指しました。

こうしてできあがったのがオペラ「ヘンゼルとグレーテル」で、毎年クリスマスの時期、各地のオペラ劇場の演目として登場します。ワーグナーの音楽の流れを汲んだフンパーディンクのこの作品は、子どもだけではなく大人も充分楽しめる作品に仕上がっています。そしてこの作品が、フンパーディンクのオペラ作曲家としてのブレイクとなりました。

フンパーディンクはこの曲を作曲した後、1897年まで、市内のグリュネブルグ・ヴェークに住んでいたそうです。フンパーディンクは「ヘンゼルとグレーテル」の大成功により経済的にも恵まれ、その後ライン河畔のポツパートに小城を購入、フランクフルトの職を辞して、作曲に専念できるようになったとのこと。

シェッフェル通り1番地の住宅の玄関左脇には、現在もフンパーディンクが住んでいたことを示す記念のプラケットが掲げられています。

ちょっとだけ 演奏会情報

「ぽこあぽこ 第14号」でお知らせした通り、ヴィースバーデン歌劇場では、12月にフンパーディンクのオペラ「ヘンゼルとグレーテル」が上演されます。

残念ながら、アルテ オーパーで年末に上演される予定のバレエ「くるみわり人形」のチケットはすでに完売だそうです。

12月21日~1月7日まで、アルテ オーパーで上演されるミュージカル「KUDAMM 56」のチケットは、まだまだ入手可能です。



2学期ミニコンサートの申し込み締め切りは
11月27日(月)です。お忘れなく!